



5月号をお届けします。執筆時点では新型コロナウイルスの感染拡大がおさまりません。ヨーロッパやアメリカでは、感染の拡大とそれに伴う地域の封鎖によって深刻な影響が出ています。日本でも、東京をはじめとする都市部で感染が拡大しており、4月7日には東京を含む7都府県に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されました。それ以前から、集会・イベントの自粛が要請されていたことから、醸造協会では、4月23日（木）・24日（金）に開催予定であった清酒製造技術セミナーおよび5月13日（水）・14日（木）の経営セミナーを中止し、5月19日（火）～22日（金）の清酒製造入門セミナーの開催を延期することといたしました。その後に予定している女性セミナーなどについても、今後の推移をみて実施の可否を検討することとなります。参加申し込みをされた方、申し込みを検討されていた方には大変申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

また、醸造協会では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、3月30日より業務時間を午前10時から午後4時までとさせていただいております。会員の皆様には、ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。本会の重要事業である醸造用酵母の製造と販売につきましては、万難を排して遂行する所存ではありますが、今後の事態については予測のつかないところであり、さらなるご不便とご迷惑をおかけする可能性も否定できません。最新情報については、随時ホームページ等で発表してまいりますので、ご注意いただければ幸いです。

ところで、ウイルスがヒトの細胞の中に入るためには、まず、細胞の表面に結合することが必要です。インフルエンザウイルスの場合にはヘマグルチニンと呼ばれる糖結合タンパク質が、細胞の外側にあるシアル酸を含む糖鎖に結合してから、細胞内に取り込まれます。コロナウイルスの場合は、ウイルス表面にある突起（スパイク）が細胞表面のアンジオテンシン変換酵素（ACE）に結合してから、細胞内に取り込まれるとのことです。ACEは血圧の調節に関与している因子で、ACE活性の阻害物が高血圧の治療薬として用いられています。タンパク質の分解物であるペプチドにはACE阻害活性を示すものがあり、麴を使用した醸造物にはACE阻害物が含まれていることが知られています。醸造物には多様な成分が含まれていますので、ウイルス感染防止に効果がある物質が含まれていても不思議ではありません。

このような中でも、桜があでやかに咲きました。東京の開花日は3月14日で、統計開始以来最も早い開花日となったものの、その後比較的気温の低い状態が続いたので、4月になっても桜が楽しめました。桜の木がたくさんある赤煉瓦酒造工場の敷地では3月23日から27日まで敷地の開放が行われました。新型コロナウイルスの影響で多くの桜の名所が立ち入り禁止になったり、宴会禁止になったりしましたが、醸造協会前の醸造試験所跡地公園でも宴会禁止のはりがみが出ていました。コロナウイルス対策が奏功して、一日でも早く皆で飲食を楽しめるようになることを願ってやみません。



新型コロナウイルスの感染が拡大していることを受け、
花見時期の集団でシートを広げて飲食する宴会等の利用については、お控え下さい。

皆様のご理解とご協力をお願いします。

北区役所道路公園課